

○ 新年の寒気動向について（12月27日 11時現在）

12月に入り、東日本から北日本を中心に、寒気の南下が見られるようになりました。特に北海道では、23日に50年ぶりの大雪となり、交通機関がマヒ状態となりました。

一方、宮崎地方は、11月に平年より0.9 高い気温となりました。12月に入り、寒気の南下もあったのですが、冬型が長続きすることがなく、すぐに最高気温が20 近くに上昇することが多くなり、26日現在で宮崎市では12月の平年値より+2.3 高い気温が続いています。

今後、予想される1月以降の寒気の動向について気象庁の長期予報と最新情報に基づいて解説します。

1 この冬の特徴

2016年は、全国的に平年並みの気温で推移していましたが、東日本は偏西風の蛇行で寒気が入りやすく、西日本は南からの暖気の影響を受けやすいという傾向が持続しています。そのため、宮崎市では平均気温が史上第2位の高さとなっています。12月もその傾向が続き、平年よりも高い気温となっています。

また12月は、気温の変動が大きく、平年よりも低い日の後に急激に気温が上昇するなど、その結果、平年気温が高くなるパターンとなっています。

過去の傾向からみると、以前は12月に入ると、次第に冬型の気圧配置となり、季節風とともに冬晴れの日が多くなるというパターンが多かったのですが、今年はずでに9日間が雨の日となっており、雨量は平年並みですが、晴れの日が少なくなっています。

2 1月以降の動向（12月22日発表の1ヶ月予報）

気 温	低い	並	高い
1ヶ月（12月24日～ ）	10	30	60
第1週（12月24日～30日）	10	30	60
第2週（12月31日～1月6日）	10	30	60
第3週（1月7日～13日）	30	30	40

降 水 量	少ない	並	多い
1ヶ月(12月24日～)	20	30	50

日 照 時 間	少ない	並	多い
1ヶ月(12月24日～)	40	40	20

*表の見方については、農業気象情報 の中で解説しています。

(1) 気温について

24日からの2週間は、平年よりもやや高い傾向と予想されています。

しかし、寒暖差が激しい傾向にあり、28日をピークに寒気が南下するため、九州でも平年並かやや低くなります。その後は、徐々に気温が上昇し、30日からは平年を上回る予想です。

その後も高い傾向が続きますが、1月6日頃から次の寒気が入ってくる予想になります。これまでのパターンであれば、北日本への影響が中心となりますが、西回りの流入パターンになると西日本でも寒さが厳しくなります。

現時点では、どう展開するのか予測できませんが、寒気が南下してくる場合には注意が必要です。

(2) 降水量

沿岸部では、12月は26日の雨が最後になり、正月を挟んで降水はないと予想されます。1ヶ月予報ではやや多いになっていますが、ほぼ平年並みと予想されます。山沿いでは、27日～30日にかけて、雨又は雪が降るおそれがありますが、雨量は少ない見込みです。

1月は、冬型が強まれば雨量が少なく、南からの気流が入れば多くなる傾向です。特に1月5日から8日かけての寒気の南下に注意が必要です。

(3) 日照時間

平年よりもやや少ない予想になりますが、冬型の強弱によって、降水量と同様に変わってきます。

3 農業気象の概要

この冬は、西日本では暖冬傾向となっていますが、1月の気温は、寒気の南下が西回りに変わってくるかどうかにかかっています。それがはっきりするのは、1月8日頃と予想されますので、最新の情報を随時入手してください。また、寒暖差が大きくなることも予想されますので、必要な対策を講じてください。

総合農業試験場企画情報室 村岡精二(気象予報士)